

## Oracle 関連のログファイルのサイズをクリア（空）にする方法

ログファイルやトレース・ファイルは、放っておくと膨大になり、定期的に削除したり、退避する必要があります。

ただし、稼働中に退避してしまうと新規にログが出力されなくなるものがあるので、種類ごとに対応の方法を変更します。

### 退避方法

#### 【削除するとダメなファイルへの退避対応】

- (1) ファイルのコピー
- (2) 対象ファイルの中身だけのクリア

#### 【削除しても問題ないファイルへの退避対応】

- (1) ファイルの移動

『対象ファイルの中身だけのクリア』方法←

UNIX 系)

```
$ /dev/null > <対象ファイル名>.log
```

Windows 系)

```
c:\Y> echo on > <対象ファイル名>.log
```

『ファイルの移動もしくは、名前変更』方法←

UNIX 系)

```
$ mv <対象ファイル名>.log <退避用ディレクトリ名>
```

```
$ mv <対象ファイル名>.log <変更後ファイル名>.log
```

Windows 系)

```
c:\Y> move <対象ファイル名>.log <退避用ディレクトリ名>
```

```
c:\Y> rename <対象ファイル名>.log <変更後ファイル名>.log
```

※ 同時に別フォルダへの移動は指定出来ない

## ログファイルの種類とメンテナンス方法

ログファイルの種類	メンテナンス方法
アラート・ログファイル	ファイルの移動
トレース・ファイル	(1) ファイルのコピー (2) 中身だけのクリア
コア・ファイル	
リスナー・ログファイル	
Oracle*Net ログファイル	
監査ログファイル	

### 注意事項

自動診断リポジトリ (ADR) が有効なシステムでは、ログファイルをメンテナンスする場合には ADR を使用して行う必要があります

Oracle Database 管理者ガイド 11g リリース 2 (11.2)

「Oracle Database の障害診断インフラストラクチャの概要」セクションを参照